

香本博個展126th

賢治の見た秩父の空



2019年 9月4日(水) ~ 9月29日(日)

2会場同時開催

Hiroshi Komoto Art Exhibition

同時開催の2つの会場

【賢治ゆかりの花壇】

〒025-0075 岩手県 花巻市花城町11-12

電話 080-2823-1048 10:00~18:00

※定休日 木曜(期間中 5, 12, 19, 26)

<https://www.facebook.com/kenjinokadan/>



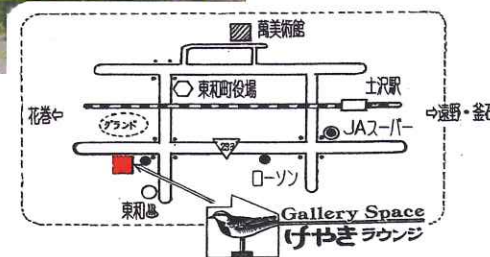
【けやきラウンジ】

〒028-0115 岩手県花巻市東和町安俵6区90

電話 0198-42-3205 10:30~18:00

※定休日 月曜(23[月]は開廊)、第二火曜

(期間中休廊 9. 10. 16. 24)



風とゆききし、

雲からエネルギーをとれ

宮沢賢治



宮沢賢治が降り立った

埼玉県の秩父郡、秩父市。

岩手とは異なる盆地の風、光の屈折、

空と大気を体感、石灰積層に遭遇し、碑も残しました。

秩父在住の画家・香本博は、幾度も岩手を訪ね、描きました。

この度の個展は、敬愛する宮沢賢治が感じた秩父を想い描いた

作品たちの、2つの会場同時展示です。交響水彩(多種類の

水溶性画材を散りばめ、響きあうように描く画風)で描かれる

絵画たちには、透明感ある美しく澄んだ青の空が広がります。

ご覧いただければ幸いです。

【雲からの贈り物(抜粋)】高橋盛夫(ギャラリーT-BOXオーナー)

香本博の絵を見た時、暮れなずむ空が薄い緑色に感じられたことを

思い出した。その時、なぜ緑色なのだろうと、しばらく空をぼんやり

眺めていた。今の生活は...人工的に作った快適な空間の中で行うもので

概念が出来上がると、もう【青い空】しか見えない。...香本博は

五感を働かせ、プリズムのように白い雲を虹色に分解してから、

たくさんの色を使い雲を組み立て直している。

心に映った自然を描くことが仕事である。

【絵筆の詩人】アテフ・ハリム(ヴァイオリニスト)
彼(香本博)の絵筆は、いつも「波(波動)」を描き出す。
波は一見どれも同じように見えるけれど彼の筆からなる「波」は
ひとつとして同じものは無い。それぞれが個性をもって語りかけてくれる。
自然の中のあらゆる波動を肌で感じそれを復元してくれているような「波」。
その「波」は渦巻きとなり私達を美の高みへと連れて行ってくれるのだ。

香本博(こうもとひろし)

1955年 岡山県津山市生まれ、埼玉県秩父市在住。独学の画家

銀座を初め北海道から沖縄まで(ご紹介で)全国130回近くの個展開催。

10代で頭椎の強い痛みが持病となり、空のエネルギーを含む絵を描く。

アトリエ 〒368-0035 埼玉県秩父市上町 3-26-13

電話 0494-25-0784 (090-7733-0668)

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~artkomoto/> 香本博で検索。

The sky experienced by Kenji Miyazawa. Ihatov & chichibu



【賢治の見た秩父の天地】520×830mm 水彩キャンバスに交響（多種）水彩。秩父銘仙の帯の、紫の強い色合いのように暮れ行く秩父の空。汽笛の聴こえる地、ようばけの断層から龍が・・養蚕で財を成し、武甲山の石灰を削る続けている（ムラサキのシルエットが元の武甲山のカタチ）。人も動物も自然の一部。